

Course number		U-LAS62 10001 LJ17					
Course title (and course title in English)	森里海連環学I：森・里・海と人のつながり Study on Connectivity of Hills, Humans and Oceans I :Symbiotic Relationship between Human and Nature				Instructor's name, job title, and department of affiliation	Field Science Education and Research Center Professor,TOKUCHI NAOKO Field Science Education and Research Center Professor,TATENO RYUNOSUKE Field Science Education and Research Center Professor,MASUDA REIJI Field Science Education and Research Center Professor,MITAMURA HIROMICHI Field Science Education and Research Center Professor,SHIMOMURA MICHITAKA Field Science Education and Research Center Associate Professor,HASEGAWA HISASHI Field Science Education and Research Center Associate Professor,ISE TAKESHI Field Science Education and Research Center Senior Lecturer,SAKANOUÉ NAO Field Science Education and Research Center Associate Professor,NAKANO TOMOYUKI Field Science Education and Research Center Associate Professor,KAI YOSHIAKI Field Science Education and Research Center Program-Specific Assistant Professor,MANQING ZHANG Field Science Education and Research Center Project Senior Lecturer,Takuya Tanaka	
Group	Interdisciplinary Sciences			Field(Classification)	Studies on Connectivity of Hills, Humans and Oceans		
Language of instruction	Japanese			Old group	Group B		Number of credits 2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2025・First semester	
Days and periods	Fri.4		Target year	All students		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
<p>わが国は海に囲まれた森の国である。わが国の自然環境は、森林生態系、沿岸海洋生態系およびその間に位置し人間活動の影響を強く受ける里域生態系により構成されており、これらは河川などを介して相互に不可分に連環している。従来、生態系は個々のユニットごとに研究されてきたが、圧倒的な人間活動のインパクトは、個々の生態系の枠組みを超えて生態系間の循環に大きな影響を与えており、人類の持続的な生存のためには、複合的な自然生態系と人類との共存システムの解明が不可欠である。本科目は、森林から海につながる生態系と人間活動の影響に関する講義を通して、地球環境を「連環」という観点で捉え、森と里と海の連環機構の理解と適正な管理のための「森里海連環学」という新しい学問領域を学ぶ科目である。</p>							
<div style="text-align: right;">Continue to 森里海連環学I：森・里・海と人のつながり(2)</div>							

[Course objectives]

- ・個々の生態系が連環し相互作用する実態とメカニズムを学習し、人間活動による連環の分断の現状とその影響を理解する。
- ・自然環境と生態系を自然資本と捉え、人類の持続的な発展に資する利用・管理方策を考える力を養う。
- ・実社会における環境保全活動の実例を学ぶ。

[Course schedule and contents]

- 1) ガイダンス「森里海連環学とは」徳地
 - 2) 流域の人間活動が河口・沿岸域の生態系に与える影響 山下（本学名誉教授）
 - 3) 河川と沿岸域の生態系のつながり 山下（本学名誉教授）
 - 4) 沿岸域から深海までのつながり 甲斐
 - 5) 沿岸域生態系とその利用 益田
 - 6) 沿岸域生態系と生物多様性 下村
 - 7) 沿岸生態系とモニタリング調査 中野
 - 8) 海洋生物の行動 三田村
 - 9) 森林生態系の物質循環 館野
 - 10) 森林と環境問題 伊勢
 - 11) 未来社会での森林資源利用 長谷川
 - 12) 森林資源の利用と川・湖・海の役割 坂野上
 - 13) 里域生態系 張
 - 14) 森・里・海と人のつながり 田中
 - 15) フィードバック（フィードバックの方法は別途連絡）
- 講義の順番は変更されることがあります。

フィールド科学教育研究センターの教員および名誉教授によりリレー講義を行う。“生態系の連環”は新しい学問であり、受講生との論議等を通して新しい価値観の創造を目指す。講師1名が専門分野を中心にその周辺領域の課題について講義を行う予定であり、自然科学系の講義として森林、里域、沿岸海域の連環、同時に森林や海洋の保全やその意識などの社会科学系の講義を含んで構成される。

[Course requirements]

全回生向け。スタート時点では特定の知識は必要ではないが、授業中必要になる知識については、自学自習を求める。

[Evaluation methods and policy]

毎講義後に理解度を評価するための小テストを行います。小テストの成績により最終的な成績を判定します。
期末試験は実施しません。
詳細は初回の授業で説明します。

[Textbooks]

講義に際して使用するテキストは、KULASISより事前にダウンロードしておくこと。

[References, etc.]

（References, etc.）

京都大学フィールド科学教育研究センター『森里海連環学』（京都大学学術出版会）ISBN:978-4-87698-689-7-C3045

森里海連環学Ⅰ：森・里・海と人のつながり(3)

京都大学フィールド科学教育研究センター『森と海をむすぶ川』（京都大学学術出版会）ISBN: 978-4-87698-575-3

石原正恵・赤石大輔・徳地直子編『「大学の森」が見た森と里の再生学』（京都大学学術出版会）ISBN:978-4-8140-0504-8

（ Related URL ）

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/>(フィールド科学教育研究センターHP)

[Study outside of class (preparation and review)]

参考文献を事前に勉強することを推奨します。

[Other information (office hours, etc.)]

- ・環境問題は自然科学にとどまらず、経済、法律、社会と密接に関係します。理系・文系両方の学生の受講を歓迎します。
- ・夏休み期間中に、本科目をフィールドで体験的に学習する森里海連環学実習が開講されます。
- ・教室の定員を超える場合には履修（人数）制限を行います。無作為抽選により結果をKULASISで発表します。